



# LUCKY

2013.2

第43期 報告書

平成24年3月1日から平成25年2月28日

LUCKY 北雄ラッキー株式会社  
JASDAQ:2747

## 株主の皆様へ

ごあいさつ

北雄ラッキー株式会社  
代表取締役社長 川端 敏



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

01

当社は創業以来、一貫して地域のお客様に愛されるお店づくりをめざし、皆様の食卓をよりおいしく、より豊かに、より健康にという理念のもと今日まで歩んでまいりましたが、昨年当社は「北雄ラッキー株式会社」として設立30周年を無事に迎えることができました。昭和57年に当社が誕生してからのこの30年間においては、消費税の導入、バブル経済の崩壊、大競争時代の到来、食生活の様変わり、雇用環境の大幅な変化、リーマンショックによる世界経済の低迷、金融不安や円高による日本経済の退潮、少子高齢化の進行など流通業を取巻く環境は、極めて厳しい状況が続いてまいりました。こうしたなか今日まで、当社が社会に貢献できる企業としてあり続けることができましたことは、ひとえにお客様をはじめとして、株主の皆様、お取引先様の暖かいご支援があったからに他なりません。改めて深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災からの復興需要等により何とか景気が下支えされる状況が続いておりましたが、政権交代後の「アベノミクス効果」により急激な円安、株価回復傾向が強まるなど、デフレ脱却に向けて明るい兆しも見えつつあります。しかし、所得や雇用の環境が改善されていないなかでの、円安による原材料や燃料費の値上げ、消費税の増税予定など様々な難問が山積されており、先行きとしてはまだまだ不透明な状況であります。スーパーマーケット業界におきましても、熾烈な低価格競争や企業の淘汰・再編が加速するなど、経営環境は厳しさを増しております。

今年は、一区切りを終えて新たなる次の30周年に向けた始まりの年であります。これから始まる大変革の時代、今までの常識を疑い、固定観念を捨てて、いち早く時代の変化に対応し生き残るため、役職者一同全力で取り組んでまいり所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 店舗網

(平成25年2月末現在)

営業店舗合計 34店

食料品・衣料品共同店 21店

食料品単独店 4店

衣料品単独店 9店

栗山店

長沼店

手宮店・朝里店

岩内店

長都店

千歳錦町店

ひとみ店・美原店

シティわっかない店

シティもんべつ店

シティえんがる店

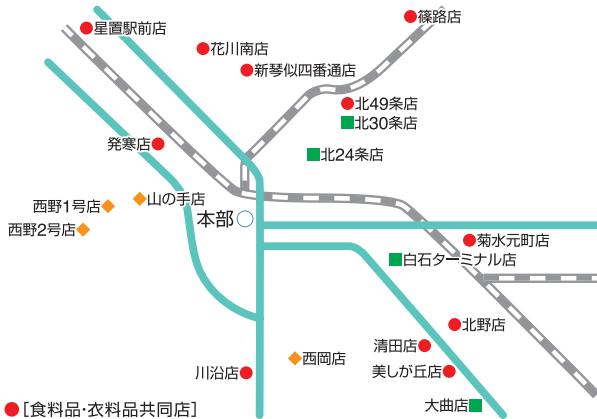
シティびほろ店

シティあばしり店

札幌市内

札幌市内

## 札幌市近郊店舗分布



● [食料品・衣料品共同店]

◆ [食料品単独店]

■ [衣料品単独店]

○ 本部 〒060-0011 札幌市中央区北11条西19丁目36-35 ☎011-643-3301

■ デリカセンター 北海道小樽市銭函3丁目193-1 ☎0134-62-1717

■ シティデリカセンター 北海道網走郡美幌町宇青山北53-3 ☎0152-75-2060

■ 生鮮センター 札幌市中央区北12条西19丁目36-168 ☎011-623-0570

■ 低温センター 札幌市中央区北12条西19丁目36-168 ☎011-643-4511

■ 物流センター 北海道石狩市新港西3丁目700 ☎0133-75-8877

昭和46年4月、食品の小売および卸売を目的として株式会社オレンジチェーンを設立。昭和49年5月、商号を株式会社山の手ストアと改めチェーン展開を開始し、更なる店舗規模の拡大と集客部門の充実強化を図るため、昭和57年5月に札幌市内を中心に衣料品のチェーン展開を行っていた株式会社まるせんと合併。商号も現在の北雄ラッキー株式会社に変更しました。

その後、一層のチェーン展開を図り、石狩市、小樽市、道東の美幌町・遠軽町、道央圏の千歳市・栗山町・長沼町と規模を拡大し、更に道東地区のドミナント化を図るため網走市、紋別市へ進出、平成17年10月には道北の稚内市、平成20年9月には岩内郡岩内町、平成23年11月には函館市へと営業エリアを広げ、平成25年2月末現在34店舗を展開しております。今後も、企業理念である「北雄ラッキーは、日本一質の高いスーパーマーケットをめざします。」を掲げ、お客さまに感動を与えるサービスとともにニーズの変化を敏感に捉え、一歩先を行くスーパーマーケットの創造に努力を続けていきます。

## 「ナチュラルラッキー& テイスティラッキー」 ラッキーらしさの商品コンセプト

お客様にとって最大の関心事である「食」の「健康と安心」の面において、当社が自信を持っておすすめしているのが「ナチュラルラッキー」の商品コンセプトです。お客様の健康増進や病気予防に役立つよう、有機野菜、特別栽培野菜、無添加商品などを展開しております。また、もうひとつの商品コンセプトである「テイスティラッキー」は、「おいしさ」と「品質」で、家族みんなが揃うお祝いの日やお誕生日などで、みんなに満足していただける商品です。

健康で安心な毎日の食生活のために  
NATURAL LUCKY **ナチュラルラッキー**



低温熟成  
定塩秋さけ



新篠津産  
特別栽培  
玉ねぎ



南部鶏

おいしいものをどどん食卓に。  
TASTY LUCKY **テイスティラッキー**



旭ボンズ



マルマメヶ日  
みかん



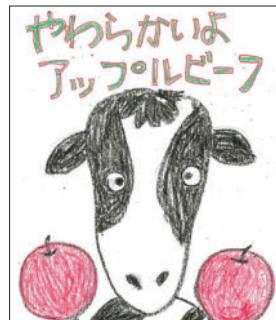
ホテルブレッド

## 北雄ラッキー設立30周年 「こどもPOPコンテスト」開催

昨年におきまして当社は、昭和57年に(株)山の手ストアと(株)まるせんが合併し北雄ラッキーが誕生してから、30周年を迎えることができました。そこで、ラッキー設立30周年記念企画として、「こどもPOPコンテスト」を開催いたしました。各店舗の地域の子供たちを対象に、テーマに沿って商品の特徴を絵や文字で描いた「こどもPOP」を募集したところ、570点もの素晴らしい魅力があふれる作品のご応募をいただきました。



最優秀賞「わが家のシチュー」



優秀賞 北海道釧路「アップルビーフ」

## 次世代の販促支援ツールです

当社では、スマートフォン専用サービスとして、献立レシピと店舗の特売情報を連動して配信する「e-CookLuck」を開始いたしました。これは、冷蔵庫などに残っている食材を入力すると、最適な組み合わせの献立レシピと必要な食材の店舗特売情報が合わせて表示されるサービスであり、忙しい主婦の皆様の、メニュー選定のお役に少しでも立ちたいと願っております。また、当社ではフェイスブックの公式ページを公開しており、多くのお客様にチラシだけでは伝えきれないイベントや商品情報を知っていただくこと、または双方向のコミュニケーションツールとして活用する予定であります。



「e-Cook Luck」の画面です



「e-Cook Luck」をご案内するポスターです

## 新人の部で最優秀賞受賞!!



新人の部で最優秀賞を受賞した畠山さんの接客の様子です

平成24年7月13日(金)札幌パークホテルにて、道内スーパーマーケット7社のレジ担当者53名が接客技術を競う、第28回全道チェッカー競技会(北海道スーパーマーケット協会主催)が開催されました。

当社からは、新人の部に3名、先輩の部に4名が参加し、新人の部では最優秀賞を、先輩の部では優秀賞を受賞いたしました。この受賞を糧として、日々のお客様への接客向上に活かしてまいります。



本番に備えての真剣な練習風景です

## 美原店の新規開店

道南地区では、昨年の一とみ店に引続き2店舗目となる「ラッキー衣料館美原店」が、函館市美原にオープンいたしました。「デイリー&カジュアル」を合言葉に、肌着、靴下などの実用衣料から紳士、婦人、子供のアウター衣料まで、品質、価値、トレンドにこだわった商品をお手頃価格の提供で、地域にお住まいの皆様のお役に立ちたいと願っております。

### 店舗概要

所在地	北海道函館市美原3丁目13-22
立地	函館市の五稜郭より車で10分
売場面積	242坪
従業員数	社員1名 パートタイマー7名（1日8時間換算）
オープン日	平成24年9月15日



新装オープン直後のお客様の行列です



「デイリー&カジュアル」を合言葉に、ファミリー衣料を展開

## 北雄ラッキーの環境方針

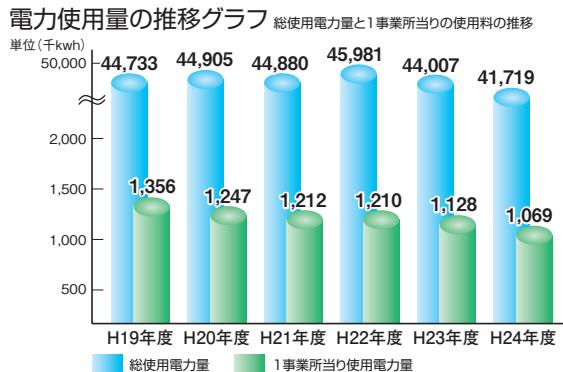
北雄ラッキーは「今も未来も地域のお客様と共にあり続けたい」という願いのもとに、地球温暖化防止(二酸化炭素の削減)をはじめとする環境問題に積極的に取り組み、従業員一人ひとりが身近に出来ることから、着実に実践し積み重ねることで、地域のスーパーマーケットとして、地球や人にやさしい環境づくりに貢献してまいります。

## ■ オープンケース照明のアップライト化

店舗内のオープンケースには棚板照明として通常1台当り6本~7本の蛍光管が装備されていますが、当社では全店舗の約1/3のオープンケースからこの棚板照明を取り外し、代わりに上方にアップライト型照明を設置することによって、ケース内を一括して照らす方法に変更いたしました。この変更により、蛍光管の減少による消費電力の削減に加えて、蛍光管の発する熱による冷却の負担も軽減することができました。



アップライト型照明で庫内全体を明るくします



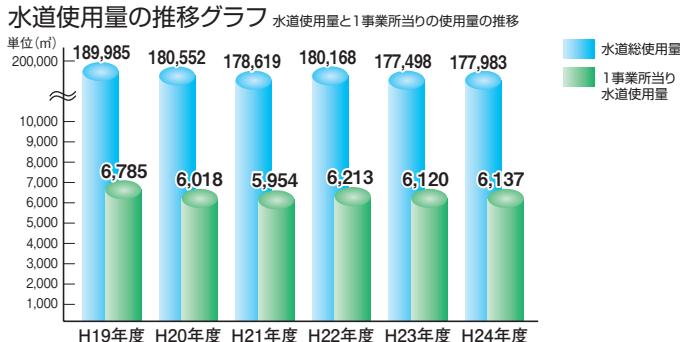
06

## ■ 水の省資源活動

当社のバックヤードにある水道の各蛇口には、水資源を大切に使うため、蛇口内部に节水効果の高い「節水コマ」(水流調節弁)を設置しております。また、各水洗トイレにも节水装置を取り付けて、全店舗で約2,000tの水道使用量の削減を実現いたしました。



蛇口の根元の部分に「節水コマ」を設置します



※環境問題への取り組みについて詳しくは、当社ホームページの環境レポートをご覧ください。

# 当期の概況

## ●営業の状況

当事業年度におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要等により景気が下支えされたものの、欧州債務危機に端を発した世界経済の減速や長期化する円高、デフレなども重なり、依然として先行き不透明な状況で推移しましたが、12月の政権交代以降は、金融緩和を始めとする経済政策に対する期待感の表れとして円安、株高傾向が強まるなど、デフレ脱却に向けて明るい兆しもみられました。

このような情勢のなか、北海道の景気におきましては、天候不順や夏、冬ともに計画停電が準備されるなど、景気浮上のきっかけを掴めない状態が続き、政権交代では景気回復の期待が高まるものの、急激な円安による原材料コストの上昇や燃料費、電気料金の上昇による収益の悪化が懸念されるなど、雇用環境の改善や消費回復が遅々として進まない状況であります。

スーパーマーケット業界におきましては、少子高齢化及び人口減少を背景に市場が縮小していくなかで、消費者の節約志向・低価格志向が進み、企業の存亡をかけた熾烈な競争が行われております。大手スーパーマーケットは、経営統合や再編を進め経営基盤の維持・拡大を図り、寡占化が進行する一方で、中小零細規模のスーパーマーケットの淘汰は更に加速しており、消費税等の増税及び食の安全性問題を含めてスーパーマーケットの経営環境は厳しさを増しております。

当社「スーパーマーケット事業部門」では、こうした消費の低迷や競争の激化への対処とともに、「シニア消費」及び「肉食需要」の増大に的確に対応すること、「低価格競争」よりもむしろ「鮮度」「品質」「おいしさ」において、お客様からの評価や信頼を得ることを重視してまいりました。

販売政策の面においては、商圈エリア内で「鮮度」「品質」「品揃え」「サービス」の面で地域1番となることを目標とし、お客様目線を常に意識したサービスを心掛けております。

商品政策の面においては、当社が推奨するナチュラルラッキー（オーガニックなどの健康と安心に特化したアイテム）とテイスティラッキー（おいしさと品質に特化したアイテム）の商品コンセプトを反映させた品揃えを継続してまいりました。

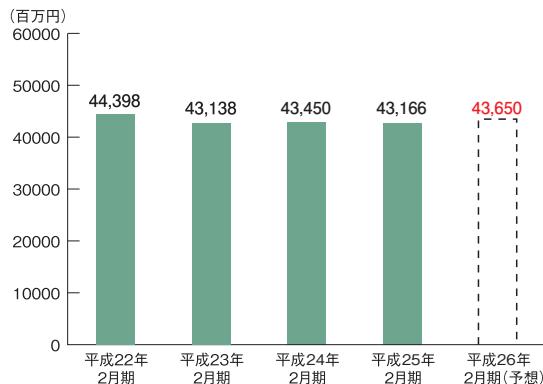
店舗運営の面においては、最重要課題である在庫の適正化を図り、鮮度の向上やロス削減による利益率の改善及び作業内容の見直しと適正な人員配置による生産性の改善に努めてまいりました。

これらの結果、「スーパーマーケット事業部門」の売上高は43,023百万円（前事業年度比99.6%）営業利益は503百万円（前事業年度比98.1%）となりました。

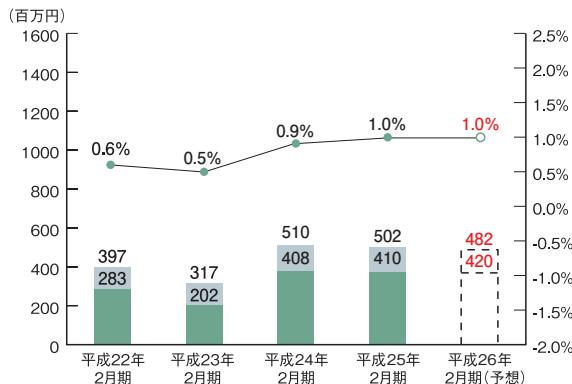
「その他の事業部門」につきましては、売上高は142百万円（前事業年度比 53.3%）、営業損失240千円（前事業年度は営業損失1,992千円）となりました。

両事業部門を合わせまして、当事業年度の売上高は43,166百万円（前事業年度比99.3%）、営業利益は502百万円（前事業年度比98.5%）、経常利益は410百万円（前事業年度比100.7%）、当期純利益は185百万円（前事業年度比121.7%）となりました。

売上高の推移と予想（22年2月期～25年2月期実績と26年2月期予想）



営業利益の推移と予想（22年2月期～25年2月期実績と26年2月期予想）



## ●次期の見通し

今後の見通しにつきましては、震災復興需要の継続を前提として、新政権による公共投資の増加、金融緩和など、デフレ脱却と景気回復に向けた経済政策が多く打ち出されておりますが、急激な円安による輸入コスト上昇が先行し、企業の売上拡大や賃金上昇までにはタイムラグが発生するとみられ、国内景気は緩やかな回復にとどまると見込まれます。

スーパーマーケット業界におきましては、市場の縮小と企業の寡占化が加速する厳しい状況であり、消費者においては公共料金の値上げや消費税・社会保険料の上昇などの影響による可処分所得の減少によって生活防衛意識が高まっている状況です。

このような状況のなか、当社は、「おいしいものを食べたい、豊かな食生活を楽しみたい」というお客様の期待にお応えするべく、「食生活提案型スーパーマーケット」の構築を目指してまいります。そのために、「鮮度」「品質」の徹底と「おいしさ」の追求、また地域の需要に対応したきめの細かい品揃えを実現してまいります。急速に進む高齢化によって、簡便・即食・個食といった需要へ対応すること、料理をしなくなった家庭の増加に対して、料理の楽しさや日本の伝統的な食文化継承のための提案をどのように行うのかが、これからの課題であると考えております。

具体的な政策においては、「ストアロイヤリティの向上」として、ラッキーヘビーユーザーとの信頼関係を販促によってより強固な関係にしております。また、「接客向上委員会」が中心となった接客の向上及び清潔で鮮度を維持した売場の継続によって、お客様との信頼関係の構築拡大を図ります。

商品政策においては、当社が推奨するナチュラルラッキーとテイスティラッキーの商品選定のフィルターを強化し、厳選された新規商品の開発

に努めてまいります。一方で「近郊野菜」や「地元銘菓」など地産・地消を強化し、地域需要に対応した品揃えの再構築を行い、北海道でNO.1の商品力の確立を目指してまいります。

店舗運営においては、「ローコスト経営」を最重要課題として、「人件費率削減」を具体的に目標を定めて、作業時間の平準化、時間帯投入人数の標準化及び各センターの最大活用による生産性の向上に取組んでまいります。また、電気料金の値上げに対しては、積極的なLED照明、省エネ機器の導入及びデマンド監視装置の活用による使用電力の適正管理によって、電気料金の抑制に努めてまいります。

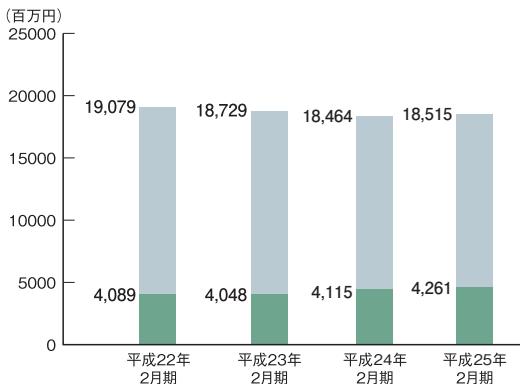
設備投資としては、当事業年度の下期において食品・衣料の共同店を虻田郡倶知安町に新規開店する予定であり、また改装は平成25年3月に遠軽店、同年5月に星置駅前店を実施しております。なお、同年6月には、現在の本社・土地の売却に伴い、本社を星置駅前店に移転する予定であります。

当社はこうした数ある課題を着実に実施していくことにより、厳しい経営環境にあるなか競争力のある企業、お客様から愛される企業の構築に向けて取り組んでまいり所存であります。

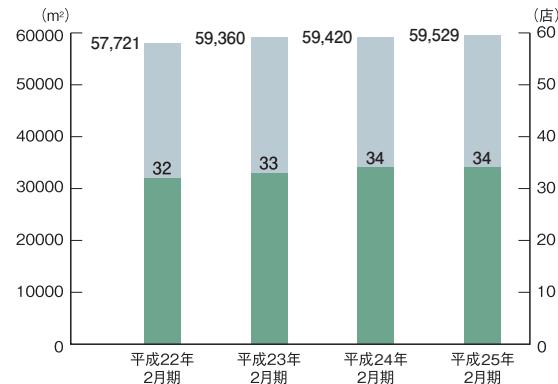
株主の皆様におかれましては、引続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次期の業績予想につきましては、売上高は43,650百万円(当事業年度比101.1%)、営業利益は482百万円(当事業年度比96.0%)、経常利益は420百万円(当事業年度比102.2%)、当期純利益は210百万円(当事業年度比113.2%)と見込んでおります。

■ 総資産の推移 (22年2月期～25年2月期実績 4期分)  
■ 純資産の推移 (22年2月期～25年2月期実績 4期分)



■ 期中平均売場面積の推移  
■ 期末店舗数の推移



# 財務諸表

## ●貸借対照表

単位:千円

科目	前期	当期
	平成24年2月29日 現在	平成25年2月28日 現在
<b>〈資産の部〉</b>		
流動資産	3,994,759	3,752,568
現金及び預金	1,429,763	1,211,254
売掛金	245,826	259,199
商品及び製品	1,634,818	1,642,205
原材料及び貯蔵品	71,564	40,037
前払費用	121,948	143,331
繰延税金資産	86,997	71,622
未収入金	393,742	378,955
その他	10,637	6,502
貸倒引当金	△540	△540
固定資産	14,818,221	14,727,867
有形固定資産	11,893,809	11,732,341
建物	3,496,083	3,430,728
構築物	145,559	122,235
車両運搬具	653	287
工具、器具及び備品	35,683	31,009
土地	7,636,809	7,636,809
リース資産	576,992	509,243
建設仮勘定	2,026	2,026
無形固定資産	22,080	20,570
ソフトウェア	3,851	2,341
電話加入権	18,228	18,228
投資その他の資産	2,902,332	2,974,955
投資有価証券	171,645	184,045
繰延税金資産	438,339	496,795
差入保証金	2,165,132	2,165,096
その他	127,213	129,017
繰延資産	33,654	34,776
社債発行費	33,654	34,776
資産合計	18,846,636	18,515,212

単位:千円

科目	前期	当期
	平成24年2月29日 現在	平成25年2月28日 現在
<b>〈負債の部〉</b>		
流動負債	9,049,364	8,103,527
買掛金	2,682,188	2,711,415
1年内償還予定の社債	600,000	260,000
短期借入金	3,577,662	2,782,030
1年内返済予定の長期借入金	881,815	1,200,305
リース債務	223,205	219,016
未払金	325,399	275,869
未払費用	263,432	264,295
未払法人税等	186,077	71,272
未払消費税等	85,133	55,104
前受金	20,501	66,582
預り金	81,555	82,833
賞与引当金	122,392	114,803
固定負債	5,681,294	6,150,535
社債	1,050,000	1,740,000
長期借入金	2,715,499	2,510,909
リース債務	399,804	359,472
退職給付引当金	873,444	900,189
役員退職慰労引当金	236,513	244,705
長期預り保証金	361,201	349,117
資産除去債務	44,578	45,247
その他	252	894
負債合計	14,730,659	14,254,063
<b>〈純資産の部〉</b>		
株主資本	4,131,567	4,253,842
資本金	641,808	641,808
資本剰余金	351,215	351,215
利益剰余金	3,138,544	3,260,818
評価・換算差額等	△15,590	7,306
その他有価証券評価差額金	△15,590	7,306
純資産合計	4,115,976	4,261,148
負債純資産合計	18,846,636	18,515,212

## ● 損益計算書

単位:千円

科目	前期	当期
	平成23年3月1日～平成24年2月29日	平成24年3月1日～平成25年2月28日
売上高	43,450,114	43,166,062
売上原価	32,703,573	32,410,066
売上総利益	10,746,541	10,755,995
営業収入	1,118,346	1,083,811
営業総利益	11,864,888	11,839,807
販売費及び一般管理費	11,354,270	11,336,982
営業利益	510,617	502,825
営業外収益	89,595	78,090
営業外費用	192,154	170,134
経常利益	408,057	410,780
特別利益	3,735	664
特別損失	59,659	126,231
税引前当期純利益	352,133	285,213
法人税、住民税及び事業税	197,702	157,055
法人税等調整額	2,044	△57,348
当期純利益	152,386	185,506

## ● 剰余金処分

### 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類 金銭といたします。  
 (2) 配当財産の割当に関する事項及びその総額  
 普通株式 1株につき金10円 配当総額 63,232,010円  
 (3) 剰余金の配当が効力を生じる日 平成25年5月30日

### (参考)

1. 当期における配当性向 34.1%	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
2. 1株当たり配当金の推移(期末時)	10.0円	8.0円	10.0円	10.0円	10.0円

## ● キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	当期
	平成24年3月1日～平成25年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	711,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	△408,689
財務活動によるキャッシュ・フロー	△641,094
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△338,508
現金及び現金同等物の期首残高	709,763
現金及び現金同等物の期末残高	371,254

## ● 株主資本等変動計算書

当事業年度(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

単位:千円

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本合計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
平成24年3月1日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	673,544	3,138,544	4,131,567	△15,590	△15,590	4,115,976
事業年度中の変動額											
剰余金の配当						△63,232	△63,232	△63,232			△63,232
当期純利益						185,506	185,506	185,506			185,506
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)									22,897	22,897	22,897
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	122,274	122,274	122,274	22,897	22,897	145,172
平成25年2月28日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	795,818	3,260,818	4,253,842	7,306	7,306	4,261,148

# 売上・設備の状況

## ●商品別売上高の推移と直近構成比の状況

### ○売上高の概要

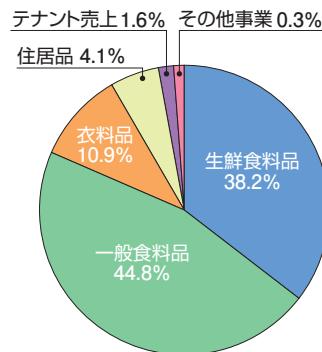
当事業年度の売上高は、前事業年度と比較し0.7%減の43,166百万円となりました。これは、9月の衣料品単独店の新規開店及び4店舗の改装効果のほか、原発事故を起因とする食の安全性の高まりなどによる当社推奨の「ナチュラルラッキー商品」が大幅に伸長したこと、「設立30周年記念セール」の販促成果などもありましたが、前年の震災特需の反動や天候不順の影響、また、うるう年の翌年による営業日数の減少などにより既存店売上高が前事業年度比99.2%にとどまったことなどによるものであります。

### 商品別売上高

単位：百万円

	23年2月期	24年2月期		25年2月期		26年2月期(予想)	
			前期比(%)		前期比(%)		前期比(%)
スーパーマーケット事業部門	42,848	43,183	100.8	43,023	99.6	43,642	101.4
生鮮食料品	16,343	16,558	101.3	16,490	99.6	16,612	100.7
一般食料品	19,418	19,463	100.2	19,356	99.4	19,670	101.6
衣料品	4,607	4,713	102.3	4,707	99.9	4,840	102.8
住居品	1,781	1,796	100.8	1,779	99.1	1,800	101.0
テナント売上	698	650	93.2	690	106.1	720	104.9
その他の事業部門	290	266	91.9	142	53.3	8	5.6
合計	43,138	43,450	100.7	43,166	99.3	43,650	101.1

### 25年2月期 売上構成比



## ●設備投資等の概要

当事業年度におきましては、平成24年9月に函館市において2店舗目となる衣料品単独店の美原店を、新規開店いたしました。また、既存店舗の改装につきましては、同年3月に札幌市北区の新琴似四番通店、同年4月に網走郡美幌町的美幌店、同年5月に網走郡美幌町のシティアリカセンター、同年6月に札幌市西区の発寒店、同年10月に札幌市白石区の菊水元町店の改装を実施しております。なお、同年8月31日付でTSUTAYA篠路店(FC店)は、FC契約期間満了に伴い閉店しております。

当事業年度の設備投資の総額は、581,489千円であります。

### 設備投資の推移

単位：百万円

	23年2月期	24年2月期		25年2月期		26年2月期(予想)	
			前期比(%)		前期比(%)		前期比(%)
投資金額合計	1,164	419	36.0	581	138.7	1,129	194.3
新店投資	—	68	—	119	174.0	524	437.3
既存店改装投資	274	147	53.9	307	208.5	382	124.3
その他	890	202	22.7	153	75.9	223	145.3
減価償却費	305	291	95.2	306	105.3	303	99.0
リース償却費	224	208	93.2	237	113.9	254	106.9

注 本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ●店舗の状況

### (1) 開店・閉店店舗数と期末平均売場面積

	20年2月期	21年2月期	22年2月期	23年2月期	24年2月期	25年2月期
開店						
店舗数	1	2	1	1	1	1
平均売場面積(㎡)	670	2,575	909	1,190	711	716
閉店						
店舗数	2	0	0	0	0	1
平均売場面積(㎡)	1,142	0	0	0	0	1,190
全店						
店舗数	29	31	32	33	34	34
期末売場面積(㎡)	54,240	56,918	57,958	59,588	59,995	59,224
期中平均売場面積(㎡)	54,322	55,810	57,721	59,360	59,420	59,529

(注)23年2月期からTSUTAYA篠路店が店舗として加わっております。

### (2) タイプ別店舗数と期末平均売場面積

	20年2月期	21年2月期	22年2月期	23年2月期	24年2月期	25年2月期
衣料品単独店						
店舗数	5	6	7	7	8	9
期末売場面積(㎡)	3,400	4,115	5,106	5,106	5,817	6,534
食料品単独店						
店舗数	3	4	4	4	4	4
期末売場面積(㎡)	2,664	4,182	4,179	4,179	4,076	4,077
食品・衣料共同店						
店舗数	21	21	21	21	21	21
期末売場面積(㎡)	48,176	48,621	48,673	49,113	48,912	48,613
その他事業(FC店)						
店舗数	—	—	—	1	1	0
期末売場面積(㎡)	—	—	—	1,190	1,190	0

(注)平成24年8月31日付でTSUTAYA篠路店は、FC契約期間満了に伴い閉店しております。

# 会社概要

設立	1982(昭和57)年5月10日	役員	代表取締役会長	桐生 泰夫
本社	〒060-0011 札幌市中央区北11条西19丁目36-35		代表取締役社長	川端 敏
資本金	6億4180万円		取締役専務執行役員	桐生 宇優 (管理本部長兼務総務部長)
代表者	代表取締役社長 川端 敏		取締役常務執行役員	山本 光治 (営業本部長兼務生鮮部長)
従業員数	正社員 509名 パートタイマー 1,582名 (1人8時間換算 月平均) 平成25年2月末日現在		取締役執行役員	山川 浩文 (グロスリー部長)
営業品目	生鮮食料品・加工食品・菓子・衣料品・ 日用雑貨・米・酒		取締役執行役員	千葉 敬一 (内部監査室長)
			取締役執行役員	堀田 史郎 (販売部長)
			常務監査役	田井中 廣治
			監査役	堀 勝彦
			監査役	宮脇 憲二
			監査役	伊藤 光男

# 沿革

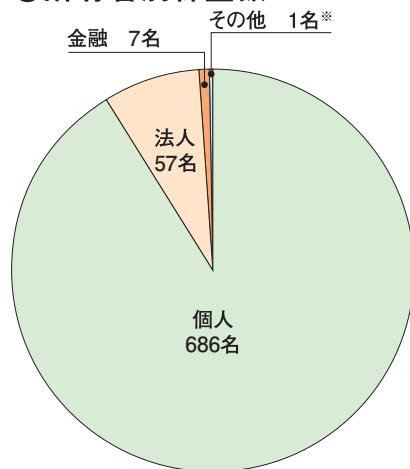
昭和46年04月	食品の小売及び卸売を目的として、札幌市手稲西野(現 西区西野)に資本金6,000千円にて、株式会社オレンジチェーンを設立。	9年03月	山の手店を増床のうえ大幅改装し、新たなプロタイプの店舗づくりに着手。
48年04月	本社を札幌市西区山の手1条7丁目に移転。	10年03月	夕張郡栗山町に栗山店を開店。
49年05月	商号を株式会社山の手ストアに変更し、本格的にスーパーマーケットのチェーン展開を開始。 同月、山の手店をはじめ、5店舗の営業を開始。	12年03月	網走市駒場にシティあばしり店を開店。道東地区3店舗となる。同月、食品の安全性検査のため独自の商品検査室を設置。
50年10月	札幌市東区に北49条店を開店。	13年03月	札幌市北区に新琴似四番通店を開店。
51年10月	札幌市豊平区(現 清田区)に清田店を開店。	14年03月	中川郡幕別町に札内店を開店。 同月、安全衛生管理室を設置。
52年12月	札幌市北区に篠路店を開店。同時にEOS(補充発注システム)を導入。	14年04月	札幌市手稲区に星置駅前店を開店。
57年05月	株式会社まるせんととの合併と同時に、北雄ラッキー株式会社に商号変更。同時に、本社を札幌市中央区大通西23丁目291-1に移転。	14年10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。(現在は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場)
58年07月	石狩町(現 石狩市)花川に花川店を開店。	15年04月	夕張郡長沼町に長沼店を開店。
59年06月	本社を札幌市中央区宮の森3条1丁目1-25に移転。	16年05月	精肉・鮮魚商品を店舗へ供給する生鮮センターを稼動。
63年07月	小樽市新光町に朝里店を開店。小樽へ進出。	16年06月	紋別市渚滑にシティもんべつ店を開店。 道東地区4店舗となる。
平成元年07月	本社を札幌市中央区北11条西19丁目36-35に移転。 同月、札幌市南区に川沿店を開店。	17年10月	稚内市新光町にシティ稚内店を開店。道北地区へ進出。
2年03月	POS(販売時点情報管理)システムを導入。	18年03月	札幌市中央区に低温物流センターを取得。
3年10月	石狩町(現 石狩市)花川に花川南店を開店。	19年07月	小樽市手宮に手宮店を開店。
5年09月	株式会社シティびほろと合併し、シティびほろ店を開店。道東地区へ進出。	20年06月	北広島市に大曲店を開店。
6年03月	千歳市錦町に千歳錦町店を開店。千歳市へ進出。	20年09月	岩内郡岩内町に岩内店を開店。
6年04月	紋別郡遠軽町にシティえんがる店を開店。道東地区2店舗となる。	21年06月	千歳市勇舞に長都店を開店。
6年11月	子会社、エル食品株式会社を設立し、食品加工卸売業を開始する。	22年03月	子会社であるエル食品株式会社及び株式会社アップルの両社を、当社を存続会社として吸収合併する。
7年02月	保険部門を独立させ、子会社、株式会社アップルを設立。	23年11月	函館市人見町にひとみ店を開店。
7年05月	札幌市豊平区(現 清田区)に美しが丘店を開店。	24年09月	函館市美原に美原店を開店。
8年03月	本格的にインスタペーカーを手がけ、以後各店へ導入。		

# 株式の状況 (平成25年2月28日現在) JASDAQ:2747

発行済株式の総数 **6,323,201株**

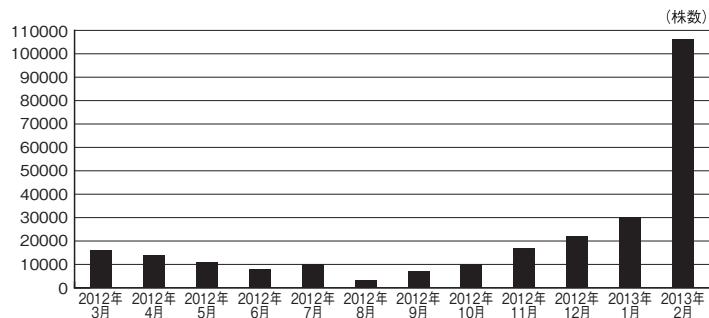
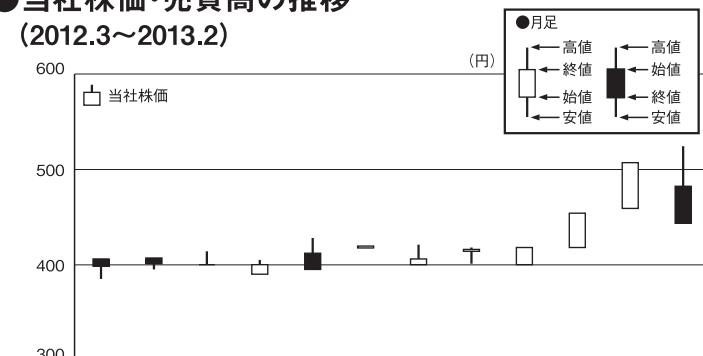
期末株主総数 **751名 (前期比37名増)**

## ●所有者別株主数



\*株式会社証券保管振替機構名義の株式であります。

## ●当社株価・売買高の推移 (2012.3~2013.2)



## ●大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
桐生泰夫	1,015,000	16.05
千葉敬一	350,000	5.53
株式会社北洋銀行	316,000	4.99
田中嘉久	281,000	4.44
堀勝彦	240,000	3.79
久保基彦	187,000	2.95
有限会社まるせん商事	180,000	2.84
株式会社北海道銀行	150,000	2.37
千葉サカエ	148,000	2.34
桐生美智子	143,000	2.26

## 株主メモ

決算期日	2月末日
株主総会 基準日	毎年5月 2月末日
配当金受領株主確定日	剰余金の配当2月末日 中間配当を行う場合は8月31日
1単元の株式の数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	電子公告により行います。
株主優待制度	株主優待制度として、毎年2月末日現在の1,000株以上を保有する株主に対し、年1回JCBギフトカード(5,000円分)もしくは「北海道特産品」を贈呈いたします。

# LUCKY

## 2013.2 第43期 報告書

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いたします。 *カスタマープラザではお取り扱いできませんので ご了承ください。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 *トラストラウンジではお取り扱いできませんので ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご 注 意	支払明細発行については、右の「特別 口座の場合」の郵便物送付先・電話お 問い合わせ先・各種手続お取扱店を ご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以 外の株式売買はできません。証券会社等に口 座を開設し、株式の振替手続を行っていただ く必要があります。

本報告書で記述されている当社の現在の計画、戦略、業績予想並びに将来予測などは、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、経済情勢・市況環境等の様々な要因の変化により、実際の事業内容や業績は、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。従いまして、当社の業績や企業価値等をご検討される際に、これら見通しのみにも全面的に依拠することは避けていただきますようお願い致します。

また、本報告書に記述するいかなる情報も、当社の株式等の購入や売却を勧誘したり、これらに対する投資をアドバイスする目的で作成されたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。